

みどりの通信

西北地域県民局
地域農林水産部
農業普及振興室
五所川原市栄町10
電話0173-34-2111(代)
分室
つがる市木造桜木9-1
電話0173-42-2222

本誌では、農業普及振興室の令和6年度重点普及指導計画(5課題)の取組結果を中心に紹介します。

1 良食味米として消費者に評価される「はれわたり」及び「青天の霹靂」の 高品質・安定生産

新品種「はれわたり」の良食味・高品質安定生産のため、栽培マニュアルに沿った栽培管理を広く指導するとともに、県産ブランド米「青天の霹靂」のブランド維持のため、新規作付者や前年出荷基準未達者に対し、継続して重点的に指導を行っています。

<取組の成果等>

- ・指導拠点ほの設置、夏季現地巡回の開催により「衛星ナビ」の活用等について関係機関と意識統一を図りました。
- ・「はれわたり」生産者に対して、高温時の水管理について重点指導したほか、「はれナビ」の活用や適期収穫の徹底を呼びかけました。
- ・「青天の霹靂」新規作付者等に対し、集荷団体の指導員と連携して個別指導しました。
- ・その結果、「はれわたり」の管内JA一等米比率は98%以上となり、「青天の霹靂」新規作付者等の83%が出荷基準を達成しました。



プロジェクトチーム夏季現地巡回

2 稼げる「西北型水田農業」の定着に向けたスマート農業の活用推進

水田農業経営の大規模化が進行する中で、労働力不足等の課題に対応できるよう、令和元年からスマート農業技術の普及を推進してきた結果、スマート農機を導入する経営体が大幅に増加しています。しかし、その機能を十分に活かし切れていないため、効果的な活用によるメリットの追求と活用できる人財の育成に取り組みました。

<取組の成果等>

- ・スマート農機の利用実態及び利用拡大に関する意向調査を実施した結果、直進作業など作業効率を重視した利用実態と自作での利用拡大意向が多いことが分かりました。
- ・営農支援システムの実効性を示すための実証ほを設置し、得られたデータと実測値との比較検証を行いました。
- ・オペレーター養成研修会を開催し、後継者、女性農業者、新規就農者など機械作業を普段していない人に対し、機械の設定・操作方法や大豆のは種・中耕作業を実習して技術の習得を図りました。
- ・西北地域スマート農業研修会で営農支援システムの利用方法について講演したことで、生産方式の改善や経営管理の効率化につながることへの理解が深まりました。



オペレーター養成研修の様子

3 中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及拡大

中泊町では令和5年度から中山間地域の3地区で農地中間管理機構関連農地整備事業の工事が始まり、ほ場整備が部分的に完成したことから、米価下落時のリスク管理や収益力向上の観点から野菜導入にチャレンジする動きが見られています。しかし、野菜栽培への技術的な不安があることから、栽培技術を実践しながら学ぶ仕組みや相談体制を整えるとともに、省力化や鳥獣害対策等の課題を検討し、普及拡大を支援しています。

<取組の成果等>

- ・栽培技術を実践しながら学ぶ「トレーニングファーム」を設置し、栽培経験のある実践農家がトレーナーとなり、栽培管理の指導や個別相談に応じ、栽培方法や出荷販売に係る手順を学び技術習得を図りました。
- ・トレーニングファームで、農業者や関係機関による現地情報交換会を開催し、栽培状況や作業体系について検討しました。また、ブロッコリーの「施肥同時中耕培土機実演会」やとうもろこしの「電気柵設置実演会」を開催し、効果を検討しました。
- ・3地区情報交換会を開催し、先行して栽培に取り組んだ薄市地区での取組結果と課題について、3地区の生産者と関係機関で共有し、今後の作付計画や目指す方向性を検討しました。
- ・その結果、中泊町の野菜導入経営体数が14戸から16戸に増加し、3地区の高収益野菜導入面積が令和5年の0haから0.78haに増加しました。



電気柵設置実演会

4 交信攪乱剤を活用した適正防除の普及による高品質りんごの輸出基盤強化

モモシクイガが台湾に輸出された本県産りんご生果実から見つかった場合、即時輸出停止となり、国内の需給にも大きく影響する懸念があることから、完璧な防除が求められています。加えて、近年は、温暖化により慣行防除を行っている園地においてモモシクイガ被害果が増加しています。

このような状況から、モモシクイガ等重要害虫の適正防除を目的に、令和6年青森県りんご病害虫防除暦から基準薬剤となった交信攪乱剤の効果や正しい設置方法等を周知し、その普及拡大に取り組みました。

<取組の成果等>

- ・交信攪乱剤の正しい設置方法を周知する展示ほを設置して、交信攪乱効果及び被害状況を調査し、効果を実証しました。
- ・交信攪乱剤の設置実演会や防除講習会で、正しい設置方法、モモシクイガ等重要害虫の発生状況及び交信攪乱剤を活用した適正防除について周知しました。
- ・交信攪乱剤設置の継続・拡大に向けて、実証した交信攪乱剤の効果、りんごの安定生産研修会や各共防連の防除暦説明会等で周知しました。
- ・その結果、令和6年における西北管内りんご園地の交信攪乱剤設置面積は、令和5年の63haから1,269haに増加しました。



栽培講習会

5 持続可能で活力のある農山漁村づくりを目指した「あおり型農村RMO」の育成

農村地域は人口減少と高齢化が進行しており、コミュニティを維持するため、地域経営体や地域の住民が連携し、人口減少に伴う地域課題解決に向けて活動する地域運営組織（RMO）等の育成が必要です。

令和3年度から育成してきた地域運営組織「三好をあじあう会（五所川原市三好地区）」は、活動を主体的に進められるように成長してきていることから、今後の発展に向けた支援の継続と、他地区への波及が求められています。

<取組の成果等>

- ・五所川原市、板柳町及び中泊町の担い手育成総合支援協議会等と連携し、地域経営体の育成、共助・共存に向けた集落の意識醸成や、地域資源の発掘・活用、担い手育成等に対する取組を支援しました。
- ・また、モデル集落である「三好をあじあう会」や、五所川原市七和地区、鱒ヶ沢町の地域経営体を支援し、交流イベントの開催や、あおり型農村RMO育成に向けた支援を行いました。
- ・これにより、三好鍋（三好地区）の普及や、米商品のリニューアル（七和地区）、QRコードを使った特殊なりんご絵の開発（鱒ヶ沢町）等、様々な取組が行われるなど、あおり型農村RMOへ向けた意識の変化も醸成されつつあります。



「あおり鍋自慢」で三好地区の取組と鍋をPR

令和6年度農林水産祭「内閣総理大臣賞」を受賞しました 中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会

農林水産祭（むらづくり部門）において、「中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会（中泊町特産物直売所「ピュア」運営者）」が「内閣総理大臣賞」を受賞しました。

地域の生産者である出荷者協議会と直売所の指定管理者である地元企業が連携し、「誰も取り残さない直売所」を目指し、地域課題に取り組んでいる活動が評価されたものです。

代表的な取組は、

- ・農産物の出荷が困難な高齢会員を対象とした集荷
- ・買い物支援と高齢者の見守り、交流の場となっている移動販売
- ・津軽地域の郷土料理や食文化の継承・普及等です。

12月9日には、会長の田中恵津子さん、副会長の佐藤イネ子さん、事務局で店長の前田晴香さんが宮下知事に受賞を報告し、知事からは、「青森県から全国に誇れる取組を発信してくれて感謝する。これからも周りの人々を元気にする取組を続けてほしい。」と励ましがりました。



授賞式の様子



知事報告の様子

令和6年産「あおもりの旨い米グランプリ」受賞者の紹介

6年産では管内から4名が受賞しました。原田氏は「青天の霹靂」の地区生育観測ほ、佐々木氏は「まっしぐら」の県生育観測ほを担当しています。

原田氏は稲わらのすき込みによる土づくり、柳原氏と佐々木氏は登熟後期までの入水による根の活力維持、葛西氏は堆肥等投入による土づくりに努めるなど、きめ細やかな栽培管理による良食味・高品質米生産を心がけています。



部門	賞	市町	氏名
青天の霹靂	グランプリ	五所川原市	原田 繁福
はれわたり	グランプリ	五所川原市	柳原 範子
まっしぐら	グランプリ	つがる市	佐々木 昭寿
まっしぐら	準グランプリ	つがる市	葛西 拓美

手前左から柳原 範子氏（代理受賞）、原田 繁福氏、佐々木 昭寿氏、奥右が葛西拓美氏

りんご生産者の皆さん、今年も「コンフューザーR」を設置しましょう！

りんご果実を加害するモモシクイガ等の重要害虫は、温暖化や使用できる殺虫剤の減少等により、薬剤散布だけで防除することが難しい状況になっています。

これを踏まえ、令和6年青森県りんご病害虫防除暦に交信攪乱剤「コンフューザーR」が基準薬剤となりました。

当室が令和6年に行った調査研究の結果、「コンフューザーR」を設置した園地では、対象害虫であるモモシクイガやリンゴコカクモンハマキ等の交尾が阻害され、高い防除効果が実証されました。

交信攪乱剤の設置作業は、はしごが不要で、10a当たり30分程度です。購入費用も一般的な殺虫剤の1～2剤程度で、追加散布の費用や労力を考えればむしろ低コストです。

青森りんごの品質や信頼を守るため、薬剤散布に加え、「コンフューザーR」を設置し、モモシクイガ等重要害虫を徹底防除しましょう。

<モモシクイガ誘引数>

